

令和 8 年度 スマートシティ伊勢推進協議会 第 1 回代表者会議 議事概要

- 1 日 時 令和 8 年 6 月 30 日（水）10 時 30 分から
- 2 場 所 伊勢市役所 本庁舎 東館 4-2 会議室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 概 要 下記のとおり

○ 会長挨拶

デジタルの普及による情報発信の速さのメリットと、フェイクニュースに関するデメリットに関すること、また、新人研修で電話の取り方を教えてほしいという声があるなど、デジタル化により人と人との交流・多様性・寛容性が減少していることについて言及し、「デジタルがリアルに融合しつつあること」に対する懸念している旨を発言。

○ DX コーディネーター 兵藤氏の紹介

目標として、「今年中に全職員が気軽に AI を使える状態にすること」と「デジタルを高齢者・障がい者・子供にも安心して活用してもらえる視点を重視する」を発表。

○ 令和 7 年度活動報告

生成 AI に関するセミナーと視察を行ったことを、事務局の北村より報告。

○ 各団体におけるデジタル化等に関する取組の共有

伊勢農協 河井管理担当常務理事：ライスセンターの受付表を二次元コードでの受付に変更。2 年ほどになるが、スマートフォンで乾燥・調整（水分・重量）の結果を確認でき、待ち時間が解消できた。また、苗の引き渡しも同じ方式にした。一方で、JA 特有の課題として、全国統一の金融・共催システムと、各農協で負担する給与や人事に関するシステムが併存しており、億単位で IT 化のコストが掛かっていることが最大の課題。

社協 前村事務局長：介護現場でリアルタイムでの情報共有をできるようにするため、LINE WORKS とデジタルインカム・ヘッドセットを導入した事に続き、昨年度は AI 議事録サービスと ChatGPT を導入した。課題としては、職員数が 300 人超であることから大企業扱いとなり、中小企業向けの補助金が対象外となったり、減額となるため、資金調達面での懸念がある。

税務署 西田署長：税務行政の将来図における三本柱を紹介し、クラウド会計ソフト導入や、全銀 EDI を利用した電子インボイス化と、データ化とデジタル化の違いを説明し、今後のマンパワー不足により、必ずデジタル化が必要になると説明。

医師会 鳥堂事務長：会員医師・スタッフの高齢化により、DX の声掛けはできても、実際

に動かすのが非常に難しい現状にあり、スモールスタートが現実的である。マイナンバーカードによる受診受付も普及したが、カードを持たない層への対応課題はいまだに残っている。

観光協会 西村専務理事：リモート観光案内を導入したが、近年は来訪者が AI で情報を得るケースも増加しており、案内件数も順調に増加している。また、手荷物配送サービスの DX 化（伝票発行のセルフ化）を進める予定だが、預かり容量の限界が課題となっている。

皇學館大学 池山准教授：自身が文系であることからデジタルとアナログ（地域コミュニティ）をどうつなぐかという点に関心がある。

鳥羽商船 澤田教授：自校は AI 関連を重視している。地域課題解決に向けては PBL（プロジェクトベースドラーニング）で、まずアイデアだしや簡易なプログラム作成を実施し、さらに深めるのであれば共同研究として事業化していきたい。事務局の説明にあった獣害対策も PBL から発展したもので、南伊勢や紀北の農家とも連携している。

事務局 柘植：庁内各部署への声掛けに加え、参画団体へも積極的に情報共有し、共同で取り組める分野があれば探していきたい。

○ 今後の取組

事務局の北村から、今後どのような研修をしたいかのニーズ調査を行い、その結果に応じた学習機会を設ける旨と、先進地視察も引き続き行う旨を説明。